

大船渡市地域学校協働本部事業

多くの地域住民が、学校や関係機関と連携・協働して、地域の子どもたちの健全育成や、安心・安全な学習環境の確保に主体的に関わっている。

～主な取組～

○ スクールガードの配置（11校に36人配置）

子どもたちの登下校時の安全を確保するため、地域住民がスクールガードとして子どもたちの見守りを行う。

〈引率型〉 集団登校の子どもたちの付き添いや、交差点等の危険箇所立ち、安全を見守る。

〈添乗型〉 スクールバスに同乗し、運行中の車内の安全を見守る。

〈巡回型〉 交通安全や防犯啓発ステッカーを車に貼り付け、学校周辺の通学路を車で巡回する。



▶（盛小学校）引率型スクールガード



▶（赤崎小学校）添乗型スクールガード

○ 地域コーディネーターの配置（6校に5人、生涯学習課に1人配置）※2校兼務1人

地域コーディネーターを配置し、子ども達に多様な体験や、幅広い教育機会を提供し、学校支援活動の推進を図る。

【地域コーディネーターの協力で行われた取組事例】

- ・川探検（立根小学校）：立根川の川探検を行った。準備段階から地域住民の協力で河川敷の草刈りを行い、当日の水生生物調査の支援、安全の見守りを行った。
- ・ホタテの耳吊り体験（吉浜小学校）：地域の養殖漁業者を講師に迎え、漁港作業場で指導を受けながら、地域の漁業であるホタテ養殖の耳吊り作業を体験した。



▶（立根小学校）川探検



▶（吉浜小学校）ホタテの耳吊り体験

○ 地域ボランティアの配置

地域住民が、学校の各種活動や環境整備などの学校支援活動を行う。

- ・ 図書支援活動地域ボランティア（12校に11人配置）※複数校兼務あり
本の修繕等、学校図書室の環境を整備することで、子どもたちの読書活動の推進を図る。
- ・ 金管支援活動地域ボランティア（1校に2人配置）
金管楽器クラブ活動に励む子どもたちを支援。



▶（大船渡北小学校）図書の修繕



▶（大船渡北小学校）図書室の環境整備

令和4年度地域学校協働本部事業

スクールガード・地域コーディネーター・地域ボランティア配置状況一覧

（単位：人）

学校名	スクールガード	地域コーディネーター	地域ボランティア	
			図書支援	金管支援
盛小学校	6	-	1	2
大船渡小学校	4	-	2	-
末崎小学校	3	1	-	-
赤崎小学校	2	1	2	-
猪川小学校	1	-	4	-
立根小学校	2	1	1	-
日頃市小学校	1	1	-	-
大船渡北小学校	4	-	4	-
綾里小学校	3	-	-	-
越喜来小学校	-	-	2	-
吉浜小学校	7	1	1	-
第一中学校	-	-	4	-
大船渡中学校	3	-	4	-
末崎中学校	-	-	3	-
東朋中学校	-	1	2	-
生涯学習課	-	1	-	-
合計	36	7	30	2

※ 地域コーディネーター及び図書支援活動地域ボランティアは、複数校掛け持ちの方もいるため、延べ人数となります。

令和5年大船渡市^{はたち}二十歳のつどい実施結果について

次世代を担う青年の二十歳という節目の時を祝い、励ますとともに、新たな自覚を持って飛躍することを期待し、二十歳のつどいを開催した。

- 1 日 時 令和5年1月8日（日）午後1時40分～午後3時30分
- 2 会 場 リアスホール 大ホール
- 3 対 象 平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生れた大船渡市出身者及び市内
在住者

4 年度別参加状況

年 度		該 当 者 数	参 加 者 数	参 加 率	家族等 参観者数
平成29年度		393	309	78.6%	174
平成30年度		422	333	78.9%	165
令和元年度		414	321	77.5%	147
令和3年度		359	270	75.2%	
令和4年度		320	242	75.6%	94
出身中学校別内訳	第一中学校	112(125)	89(93)	79.5(74.4)%	
	大船渡中学校	72 (84)	59 (66)	81.9(78.6)%	
	末崎中学校	33 (27)	31 (25)	93.9(92.6)%	
	赤崎中学校	22 (31)	19 (25)	86.4(80.6)%	
	日頃市中学校	9 (15)	6 (12)	66.7(80.0)%	
	綾里中学校	21 (20)	17 (15)	81.0(75.0)%	
	越喜来中学校	18 (22)	14 (21)	77.8(95.5)%	
	吉浜中学校	10 (10)	7 (8)	70.0(80.0)%	
	気仙光陵支援学校	4 (8)	0 (2)	25.0(25.0)%	
	市内中学校卒業生小計	301 (342)	242 (267)	80.4(78.1)%	
	転入者等	19 (17)	0 (3)	0.0(17.6)%	

※ 出身中学校別内訳の（ ）内の数値は、令和3年度実績である。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。

- 5 日 程 13:00 受付開始
13:40 記念行事（実行委員会委員作成動画上映）
14:00 式典（司会：実行委員会委員）
14:45 記念写真撮影
15:30 終了

6 特設ホームページの開設

(1) 内容

- ① 式典のライブ配信（式典終了後は、編集動画を配信）
- ② お祝いメッセージ（恩師、東北楽天ゴールデンイーグルス等）
- ③ 二十歳のつどい実行委員会委員作成動画
- ④ 20歳向け啓発パンフレット

- (2) 開設期間 令和4年12月19日（月）から令和5年3月31日（金）まで
※現在の内容の公開は、令和5年1月8日（日）から

- (3) ホームページURL

<https://ofunatoshi-seijinshiki.jp>



7 成果・反省

対象者全体の参加率は75.6%（前回（成人式として開催）75.2%）、市内中学校卒業者の参加率は80.4%（前回78.1%）であり、コロナ禍の中、前回より上昇した。

3年ぶりに対象者家族の参観を可（対象者1人につき家族1人まで）とし、さらに、記念写真撮影の際、家族による撮影時間を設けた。約100人が参観し、わが子の晴れの姿を収めようとカメラを構える家族の様子が印象的であった。

8 新成人（18歳）への対応

ふるさとの価値の再認識や地元への愛着・誇りを醸成する機会の創出を図るため、新成人（令和4年度内に18歳になる者）を対象に、下記のとおり送付。

(1) 送付物

- ① 市長お祝いメッセージ
- ② リーフレット（市公式ホームページ・SNS情報、無料券の案内などを「二十歳のつどい」の概要とともに周知）
- ③ 公共施設等無料券
 - ・市立博物館及び世界の椿館・基石無料入館券
 - ・夏虫のお湯っこ無料入浴券
 - ・道の駅さんりく 柿ソフトクリーム無料券

※ 公共施設等無料券については、二十歳のつどい対象者へも式典当日に配布

(2) 対象者

295人（市内在住で平成16年4月2日から平成17年4月1日生まれの者）

(3) 送付日

令和5年2月28日（火）

令和4年度青少年体験学習事業「陶芸体験学習」の実施状況について

1 日 時

令和4年7月3日（日）

- (1) 午前の部：午前10時00分～正午
- (2) 午後の部：午後1時00分～3時00分

2 会 場

三陸公民館

3 目 的

陶芸体験を通じて美的な創造性を発揮するとともに、学校や家庭で体験する機会のない事柄への挑戦心を養う。

4 対 象 者

市内在住の小・中学生及び保護者

5 講 師

三陸町陶友会会員（会長 及川 光三 氏）

6 学 習 内 容

皿、茶わん、置物等の陶器の作成を行った。

7 定員及び申込状況

- (1) 定員 10組（各5組）
 - (2) 申込 36組（午前の部：24組、午後の部：12組）
- ※ 申込多数のため、定員を12組に増やし、抽選を実施した。

8 参加人数

	参加組数（組）	参加者数（人）		
		子ども	保護者	計
午前の部	6	7	7	14
午後の部	6	7	7	14
全体	12	14	14	28

9 実施状況（別紙アンケート結果より）

- ・ 参加の感想については、「大変良かった」「良かった」と回答した参加者は 100%となり、全員に満足いただけた講座となった。
- ・ 「自分がすすんで取り組むことができたか」という問いに対し、「できた」「まあまあできた」と回答した子どもは 92.3%だった。また、「子どもが意欲的に取り組むことができたか」という問いに対し、「できた」「まあまあできた」と回答した保護者は 100%となった。
- ・ 学習前後の変化として、子ども、保護者ともに「思い出ができた」「アイデアを考えたり工夫したりできた」との回答が多かった。
- ・ 「最初は難しかったけど楽しかった（子ども）」「丁寧に教えていただいたので満足できる仕上がりになった（保護者）」等、「参加して良かった」との感想が多く寄せられた。また、「これを作って売る人がすごいと思った（子ども）」「娘のほうが自由な作品を作っていて驚いた（保護者）」との新たな発見をした参加者もいた。

10 評 価

申込が定員を大幅に超過したが、定員枠を増やし、少しでも多くの参加者に体験の機会を提供することができた。

講師の方々に、参加者の作りたい気持ちを尊重しながら対応いただいたことから、参加者全員に満足いただけた講座となった。

令和4年度青少年体験学習事業「ドローンプログラミング体験教室」の実施状況について

1 日 時

令和4年12月18日（日）

- (1) 午前の部：午前9時30分～正午
- (2) 午後の部：午後1時30分～4時00分

2 会 場

大船渡市民交流館・カメラアホール

3 目 的

令和2年度より全国の小学校で必修化されているプログラミング学習に関連して、先端技術であるドローンの飛行プログラムを自ら組み、実際に操縦することで、青少年の自主性と未知への好奇心を育む。

4 対象者

市内在住の以下の要件に該当する子及び保護者

- (1) 未就学児：平成28年4月2日～平成30年4月1日までに生まれた子
 - ※ 保育園等におけるクラスが「年中」「年長」の園児
- (2) 小学生
- (3) 中学生

5 講 師

鈴木 良隆 氏、得 孝裕 氏（岩手ドローンスクール）

6 学習内容

プログラミング用アプリを導入したノートPCを用い、ドローンの操縦プログラムを作成し、実際に操縦した。

7 定員及び申込状況

- (1) 定員：16組（午前8組/午後8組）
- (2) 申込：33組（午前20組/午後13組）

8 参加人数

	参加組数（組）	参加者数（人）		
		子ども	保護者	計
午前の部	8	10	8	18
午後の部	8	10	8	18
全体	16	20	16	36

9 実施状況（別紙アンケート結果より）

- ・ 参加の感想については、「大変良かった」「良かった」と回答した参加者は97.4%となり、大多数の参加者に満足いただけた講座となった。
- ・ 「自分がすすんで取り組むことができたか」という問いに対し、「できた」「まあまあできた」と回答した子どもは90.0%だった。また、「子どもが意欲的に取り組むことができたか」という問いに対し、「できた」「まあまあできた」と回答した保護者は94.7%となった。
- ・ 学習前後の変化として、子ども、保護者ともに「アイデアを考えたり工夫したりできた」「思い出ができた」との回答が多かった。
- ・ 「ドローンを初めて見たから驚いたよ（小1）」「ドローンは物を運ぶことができたり、人の生活を助けたりしているということが分かりました（小4）」「繰り返し挑戦したくなるような、子どもの意欲を引き出す楽しい体験学習でした（中2保護者）」「子どもが夢中になって頑張る姿が見れたのが嬉しかったです（小4保護者）」等の感想が寄せられた。

第 68 回大船渡市民芸術祭実施結果について

大船渡市民の文化芸術活動の成果を発表・展示する機会を提供し、広く市民に文化芸術への関心を喚起し、自主的な創作活動や地域文化の向上を図るため、第 68 回大船渡市民芸術祭を開催した。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった事業が多かったが、今年度は、コロナ禍以前の状況に近い規模で開催することができた。

1 開催概要

- (1) 開催期間 令和 4 年 10 月から令和 4 年 11 月まで
- (2) 会場 大船渡市民文化会館・リアスホール、カメラアホール、三陸公民館
- (3) 部門及び事業数

16 部門 17 事業（第 67 回：10 部門 12 事業）

※総合美術展及び三陸地区文化祭は 1 部門 1 事業として数える。

2 実施状況

部門	事業名	期日	場所	出演・出品者数		作品・演目数		参観者数	
				本年	前回比	本年	前回比	本年	前回比
演劇	Actress challenge 2022	中止	三陸公民館	-	-	-	-	-	-
器楽	音楽のつどい	11月6日(日)	カメラアホール	61	4	7	△ 1	106	13
	吹奏楽のひととき	11月3日 (祝・木)	リアスホール	11	3	9	2	126	126
洋舞	大船渡バレエ教室おさらい会	10月16日(日)	リアスホール	25	1	16	△ 8	100	40
短歌	歌に親しむー短歌共学	10月11日(火)	カメラアホール	11	11	22	22	10	10
俳句	俳句会	10月4日(火)	カメラアホール	16	0	80	0	11	△ 2
民謡と踊り	民謡とおどりの集い	10月2日(日)	リアスホール	110	110	42	42	410	410
詩	詩祭	10月15日(土)	カメラアホール	8	△ 4	12	0	9	△ 5
吟道	吟詠詩舞道祭	11月5日(土)	カメラアホール	45	△ 5	42	△ 1	50	△ 10
茶道	茶会	10月16日(日)	リアスホール	46	46	2	2	191	191
日舞	日本舞踊のつどい	11月6日(日)	リアスホール	22	3	15	2	296	156
大正琴	大正琴のつどい	11月12日(土)	リアスホール	40	△ 3	13	1	50	7

部門	事業名	期日	場所	出演・出品者数		作品・演目数		参観者数	
				本年	前回比	本年	本年	前回比	本年
謡曲	喜多流・観世流合同謡曲と仕舞の会	11月13日(日)	カメラリアホール	27	3	17	0	42	△ 8
端唄	端唄のひととき	11月20日(日)	カメラリアホール	2	2	5	5	10	10
コーラス	コーラスの夕べ	11月20日(日)	リアスホール	99	99	15	15	200	200
小中学校音楽発表会	小・中学校音楽発表会	11月10日(木)	リアスホール	529	529	16	16	603	603
三陸地区文化祭		11月19日(土)～20日(日)	三陸公民館	137	△ 44	650	△ 93	297	△ 4
総合美術展 (詳細は別表のとおり)		前期: 10月29日(土)～31日(月) 後期: 11月5日(土)～7日(月)	リアスホール	866	3	1,363	96	2,175	148
前回参加のうち今回不参加分(1事業)					△ 13		△ 11		△ 45
合 計				2,055	745	2,326	89	4,686	1,840

別表 総合美術展出品状況

前後期別	部門	出品者数(人)		作品数(点)		参観者数(人)	
		本年	前回比	本年	前回比	本年	前回比
前期	華道	52	△ 1	46	△ 11	609	73
	文芸	38	3	107	△ 33		
	書道	57	△ 38	68	△ 22		
	陶芸	21	9	217	38		
	デジタルアート	47	47	109	109		
	ハンギングバスケット	36	6	68	17		
	小計	251	26	615	98		
後期	児童・生徒作品	552	△ 25	552	△ 29	1,566	75
	絵画	14	0	41	3		
	水彩画	14	0	30	△ 2		
	水墨画	7	2	18	4		
	写真	12	△ 1	39	6		
	彫刻・工芸	16	1	68	16		
	小計	615	△ 23	748	△ 2		
合計	866	3	1,363	96	2,175	148	

1 令和4年5月8日(日)開催
SOMPO ボールゲームフェスタ in 大船渡



4競技の魅力を体感

ボールゲームフェスタ 塚原氏(元陸上競技日本代表)

大船渡

大船渡市と一般社団法人日本トップリーグ連携機構が主催する市制施行70周年記念「SOMPOボールゲームフェスタin大船渡」は、8日、盛町の市民体育館で行われた。元日本代表選手らが講師を務め、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ラグビーの体験や、ボールを使った遊びを通じて交流を深め

日本トップリーグ連携機構は、団体ボールゲーム12リーグの競技力向上、運営活性化を目的に活動。この日の催しは、同機構所属のアスリートが運動の楽しさ、技術を伝え、親子のコミュニケーションや参加者同士の触れ合いを深める機会をつくらうと企画した。

スパシャルゲストとして、元陸上競技日本代表の塚原直貴氏が来場。元ラグビー選手で釜石シーウェイブスRFCアンバサダーの向井陽氏、元バスケットボール日本代表の篠原恵氏が講師を務めた。さらに、バレーボールの講師はU18/19の女子日本代表監督の三枝大地氏と、元日本代表の綱島久子氏。バスケットボールは、篠原氏と元トヨタ紡織サンシャインラビッツの長部沙梨氏。サッカーは、いわてグルージャ盛岡スクールスタッフの佐藤公紀氏と板垣大夢氏、ラグビーは向井氏と元釜石シーウェイブスRFCの細川進氏がそれぞれ、子どもたちを指導した。

子どもたちと一緒に体を動かした塚原氏(右から2人目、電子新聞に別写真あり)

人が参加。開会式では、塚原氏が「いろいろな競技を知るきっかけになってほしい」とあいさつした。

子どもたちは30分ずつ4競技を体験。ボールを使った練習や、ミニゲームを通じてポイントを決める楽しさやチームプレーの達成感を味わった。塚原氏も一緒に体を動かし、子どもたちに声をかけながら心を通わせた。

キッズチャレンジに先立ち行われた「あそびバ！」は、5歳児、小学3年生とその保護者40組が参加。さまざま

まなボールを使った遊びを体験し、館内には歓声が広がった。

越喜来こども園年長の中嶋啓人君(5)は「お父さんと一緒に遊ぶのが楽しかった。これからバスケットボールをやってみよう」と話していた。

2 令和4年9月10日(土)~11日(日)開催

栗生澤淳一氏顕彰令和4年度大船渡ポートサイドバレーボール大会



3年ぶりの熱戦開幕

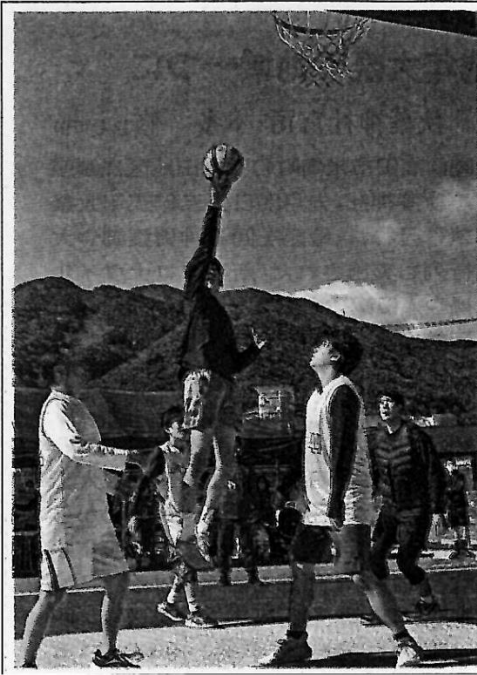
大船渡PS
バレーボール大会
小学生選手のプレー輝く

栗生澤淳一氏顕彰、令和4年度大船渡ポートサイドバレーボール大会(同実行委主催)は10日、大船渡市盛町の市民体育館など市内4会場で開催した。新型コロナウイルスの影響で元年度の大会以来、3年ぶりの開催。気仙内外から出場した小学生26チームが、優勝を目指して熱い戦いを繰り広げている。大会は11日まで。

栗生澤淳一氏顕彰、令和4年度大船渡ポートサイドバレーボール大会(同実行委主催)は10日、大船渡市盛町の市民体育館など市内4会場で開催した。新型コロナウイルスの影響で元年度の大会以来、3年ぶりの開催。気仙内外から出場した小学生26チームが、優勝を目指して熱い戦いを繰り広げている。大会は11日まで。

栗生澤淳一氏顕彰、令和4年度大船渡ポートサイドバレーボール大会(同実行委主催)は10日、大船渡市盛町の市民体育館など市内4会場で開催した。新型コロナウイルスの影響で元年度の大会以来、3年ぶりの開催。気仙内外から出場した小学生26チームが、優勝を目指して熱い戦いを繰り広げている。大会は11日まで。

3 令和4年10月30日(日)開催
3x3 OFUNATO CUP



幅広い世代が熱戦

五輪のレガ
シーを継承

「3x3」バスケット大会

大船渡で

大船渡市大船渡町のキャッセン大船渡エリア(おおふなほーと第2駐車場)で10月30日、3人制バスケットボール・3x3(スリーエックススリー)の大会「OFUNATO CUP(大船渡カップ)」(同実行委主催)が開かれた。一般、中学生が開放感あふれる青空の下で競技を楽しみ、交流を図った。

「3x3」は、国際バスケットボール連盟(FIBA)が正式なルールを設け、平成19年から正式競技種目としてスタート。大船渡市では、令和元年に復興「ありがとろ」ホストタウン交流事業の一環で初開催され、新型コロナウィルスの影響で1年休止し、昨年から再開。東京オリンピック・パラリンピックが終了した今年には、関連事業によって生まれたレガシーの継承を狙いに開催した。

今大会には、県内外から一般の部11チーム、中学生男女各3チームが出場し、3x3用の移動式バスケットボールコートで熱戦を展開。観客らが見守る中、チームでボールを

つないでゴールを目指し、競技を通じた交流も深めた。

また、同29日には、盛町の市民体育館で、東日本大震災前から市内で指導支援などを行ってきた千葉県松戸市のアマチュアバスケットボールチーム「勉族」による教室が開かれ、市内の小中学生80人が技術を学んだ。

大会結果次の通り。

▽一般の部順位①EASY MONKEYS(宮古市)②HOOD Vibe(大船渡市)

▽中学生の部順位①5K(大船渡市)②酸欠の金魚(陸前高田市)

▽同女子の部順位①チーム佐藤(大船渡市)②未中女子(同)

(に別写真あり)

4 令和4年11月6日(日)開催

全米陸上競技連盟によるオンライン陸上クリニック



つながり生かし上達へ

大船渡

市内中学校
特設陸上部

米コーチらオンライン指導

大船渡市による全米一りがとうホストタウン陸上競技連盟オンライン事業の一環で、東京2020オリンピックに出場した米国陸上コーチや選手と高校生らによるオンライン交流会を開催。本年度も、同事業の「レガシー継続」の一環で企画した。特設陸上部は、市体育協会による休日部活動の段階的な地域移行市は昨年も、復興あ

りかとうホストタウン陸上競技連盟オンライン事業の一環で、東京2020オリンピックに出場した米国陸上コーチや選手と高校生らによるオンライン交流会を開催。本年度も、同事業の「レガシー継続」の一環で企画した。特設陸上部は、市体育協会による休日部活動の段階的な地域移行市は昨年も、復興あ

に向けた研究事業の中で立ち上がり、今年7月から活動が本格化した。全米陸上競技連盟からは、昨年の交流会にも参加した米国男子短距離・ハードルコーチのダリル・ウッドソン氏のほか、3年前のドーハ世界陸上の女子4×400リレーで金メダルを獲得した一員のフィリス・フランシス選手、同じく世界リレー横浜大会のシャトルリレーで金メダルを獲得したシャリカ・ネルビス選手らがオンライン形式で参加した。体育館では、生徒たちが目まぐるしく行っているトレーニングに加え、事前にダリル氏から指示を受けていたメニューも実施。練習風景を確認したダリル氏は、腕の振りや足の動き方などについてア

陸上クリニックに参加した生徒たち

ドバイスを送り、生徒たちは真剣な表情を見せていた。世界を舞台に戦う関係者との交流を通じて、今後の活動や記録向上への意欲にもつながった様子。選手を代表して、大船渡一中3年の及川侔彦君が感謝の言葉を述べたほか、今後の活躍も誓った。市では今後も、レガシー事業としてスポーツ交流を検討することになっている。

4年ぶり「大船渡路」に活気



新春四大マラソン大会 約1100人が健脚競う

大船渡

コロナ禍など
乗り越え復活

大船渡市市制施行70周年記念大船渡新春四大マラソン大会(同実行委、岩手陸上競技協会主催)は8日、盛町の市民体育館前を発着点とするコースで開かれた。道路工事や新型コロナウイルスの影響を乗り越え、平成31年1月の前回大会から4年ぶりの開催。県内外の出場ランナーが久しぶりの「大船渡路」を駆け抜け、コロナ禍にあえぐ地域に活気をもたらした。

(菅野弘大)

昭和27年から約70年一観点から開始式などは続く年明け恒例の大実施せず、当日は一般会。令和2年は道路工事コースが使用できず、3、4年は新型コロナウイルスの影響で3年連続の中止となっていたが、今回4年ぶりに復活。「10マイルロードレース県大会」「10*5*ロードレース県大会」「県南地区駅伝競走大会」「県南地区中学校対抗駅伝競走大会」の4大会を併催した。

4年ぶりに「大船渡路」を駆けける選手ら

開始前には路面凍結なども見られたが、暖かな陽光が差し込み絶好のマラソン日和となった同日。選手らは、スタートの号砲とともに一斉にコースへと駆け出し、汗を拭いながら懸命にゴールを目指した。沿道に詰めかけた観客からも、応援で選手らの走りを後押しした。

このうち、一般男子駅伝では、一関市のBERMANが9連覇を達成。アンカーを務めた大橋真弥選手(29)は、個人で一般男子10マイルも制し、「久しぶりに開催された大会で優勝できてうれしい。応援の声が温かく、走っていてとても楽しかった。この数年で大船渡のまち並みも変わったように感じる。また次の大会にも出場したい」と意欲を見せた。

地元から高校男子10*ロードレースに出場した佐藤佑紀選手(大船渡高3年)は、「いつもトラックを走っていたので、沿道からの声援が走る力になった。他校の選手たちとも一緒に競い合うことができ、自分ももっと頑張ろうと思えた」と話していた。

大会結果は後日掲載。



令和4年度埋蔵文化財活用事業の実施について

1 趣旨

大洞貝塚が国の史跡に指定されて20年の節目となることを記念し、当該史跡の意義について広く周知し、当市の貴重な歴史風土に対する市民の理解と関心を深める。

2 実施状況

(1) 「おおふなと遺跡おさんぽガイド」の作製及び配布

発行：令和4年10月

作成部数：2,000部

配布先：市内小中学校、市立博物館ほか公共施設、観光施設等

内容：近年の調査成果を踏まえ、市内の遺跡を幅広く紹介するパンフレットを作製した。

(2) 文化財めぐり

日時：令和4年11月13日（日） 午前9時～正午

場所・内容：県指定史跡関谷洞窟住居跡の現地見学及び解説

参加人数：16人（ほか関係者2人）

実施結果：新型コロナウイルス感染防止のため、バス移動を行わず現地集合とした。アンケートでは参加者の93.8%が「大変よかった」、6.2%が「よかった」と回答した。

(3) 市指定史跡平根一里塚の解説板設置

設置日：令和4年11月30日（水）

内容：歴史の道百選浜街道に関連する市史跡平根一里塚に解説板を設置した。

(4) 「縄文が好きになる図書展」の開催

会期：令和5年1月14日（土）～2月5日（日）

会場：大船渡市立図書館

内容：縄文時代に焦点を当てる図書展を開催し、併せて考古資料の展示を行った。

(5) 「大船渡市の縄文土器ほぼ全部展」の開催

会期：令和5年1月21日（土）～3月21日（火・祝）

会場：大船渡市立博物館（特別展示室）

内容：市内で出土した縄文土器のうち、全体の形がわかるものをほぼ全て展示している。

(6) パネル展「大船渡の海と縄文人」の開催

会期：令和5年1月21日（土）～3月21日（火・祝）

会場：大船渡市魚市場

内容：市内遺跡からみる海と縄文人とのかかわりをパネルで紹介している。

(7) 「縄文土器が展示されるまで」作業見学会・体験会の開催

会期：令和5年3月12日（日）

会場：大船渡市立博物館

内容：土器の接合などの作業を実演、一部の作業を体験させる。

担当：教育委員会事務局教育総務課 村田（内線296）



文化財めぐり



平根一里塚解説板



縄文が好きになる図書展

「海辺の生物観察会」 実施報告書

- 1 趣 旨 気仙地域は、地理的・気候的な条件から多様な生態系が見られる地域であり、豊富な動物相を有する。観察会では、令和元年に行った観察会との比較を行うとともに、野外での生物観察の方法を学びながら、地域の生態系を探り、郷土の自然に関する理解を深め、併せて自然保護を啓発する。
- 2 主 催 大船渡市立博物館
- 3 協 力 北里大学海洋生命科学部水圏生態学研究室、岩手県沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター、陸前高田市立博物館、越喜来漁業協同組合、三陸ジオパーク推進協議会
- 4 日 時 令和4年7月17日（日）午前9時00分～正午
- 5 場 所 大船渡市三陸町越喜来 浦浜海岸
- 6 講 師 北里大学 海洋生命科学部 教授 朝日田 卓 氏
岩手県沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター 技師 片寄 剛 氏
陸前高田市立博物館 主任学芸員 熊谷 賢 氏
- 7 内 容 海辺に生息する海洋生物の観察及び、海洋生物観察方法の講習
- 8 参加者数 44名（子ども20名、大人24名、20組）
- 9 成 果 等
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、参加者を3班に分けて開催し、講師からの解説を密にならず聞くことができた。
 - ・雨天時での開催となったため、雨脚が強くなった2回目の途中で切り上げ、講師からの解説に切り替えた。
 - ・北里大学と陸前高田市立博物館の協力で子どもの参加者にライフジャケットを着用させ、十分な注意喚起を行いながら安全確保に努めた。
 - ・参加者アンケートでは、「とてもよかった」75%「よかった」25%と大変好評であった。
 - ・服装について事前に注意喚起を行ったが、少数薄着での参加者がいた。次回は雨天時を踏まえ体温を守ることも伝える必要がある。



解説を熱心に聞く参加者



講評時の質疑応答

令和4年度 大船渡市立博物館 教育普及事業
「教員のための博物館の日」 実施報告書

- 1 趣 旨 教員が地元の博物館に来館して親近感をもち、学習教材・学習素材としての博物館資料・施設を知る機会を設けることで、学校教員の博物館活用に関する理解の拡充と学校教育における博物館利用の促進を図る。
- 2 主 催 大船渡市立博物館
- 3 共 催 独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会
- 4 後 援 文部科学省
- 5 協 力 陸前高田市立博物館、住田町民俗資料館、三陸ジオパーク推進協議会
- 6 日 時 令和4年7月29日（金） 午前9時～午後0時10分
- 7 会 場 大船渡市立博物館
- 8 対 象 気仙管内に勤務・在住する小中学校教員
- 9 内 容 (1) 大船渡市立博物館の活動と利用について
(当館 工藤やよい 主任学芸員)
(2) 陸前高田市立博物館の活動と利用について
(陸前高田市立博物館 浅川崇典 学芸員)
(3) 住田町民俗資料館の活動と利用について
(住田町教育委員会 浅川甲子 主事)
(4) 簡単にできる！勾玉づくり (当館 工藤やよい 主任学芸員)
- 10 参加者数 14名（小学校教員6名、中学校教員4名、その他4名）
- 11 成果と課題
 - ・当館での開催は6回目となり、今年度は、陸前高田市立博物館、住田町民俗資料館から講師を招聘し、気仙地区の博物館等の連携をより強化する形で実施した。両館の特徴や活動も周知することができ、気仙地区の多様な博物館の活動内容を知る機会となった。今後も連携した開催を検討する。
 - ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昼食休憩を挟む長時間の開催は見送った。そのため、参加者数は前年度よりも減少となった。過去5回の参加実績を踏まえると、企画展の解説会やバックヤードツアーなどの人気が高いことから、各館の企画展の開催状況を踏まえ、開催場所と内容について検討が必要である。
 - ・アンケートの自由記載によると、身近な博物館を知るという博学連携の導入期の目的のみではなく、単元の開発など、より実践的な博学連携を目的とする参加者があった。様々なニーズがあることを把握し、より一層、博学連携が実現するような取り組みとして、当該事業内容を検討する必要がある。
 - ・三陸ジオパークに関する興味関心が高いことから、今後は、三陸ジオパーク推進協議会との連携強化、三陸ジオパークを活用した博学連携を模索する。

教員のための博物館の日実施状況



開会・館長挨拶



プログラム A 大船渡市立博物館の活動と利用



休憩時間 貸出可能資料の見学



プログラム B 陸前高田市立博物館の活動と利用



プログラム C 住田町民俗資料館の活動と利用



プログラム D ワークショップ「まがたまづくり」

地域社会教育振興事業費補助金交付要綱

(目的)

第1 地域の社会教育の振興を図るため、大船渡市立地区公民館（以下「地区公民館」という。）の運営に要する経費等に対して、予算の範囲内で、大船渡市補助金等交付規則（平成13年大船渡市規則第56号）及びこの要綱により補助金を交付する。

(補助対象経費)

第2 補助金の交付の対象となる経費は、地区公民館が社会教育法（昭和24年法律第207号）第22条に規定する事業を行なうために要する経費のうち、次に掲げる経費とする。

- (1) 地区公民館の運営に要する経費
- (2) 地区公民館の施設管理に要する経費
- (3) 地域公民館の育成に要する経費
- (4) その他市長が必要と認める経費

(補助金の額)

第3 補助金の額は、予算の範囲内で市長が定める。

(補則)

第4 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

大船渡市地域公民館整備事業費補助金交付要綱

(目的)

第1 地域住民の集団活動、学習活動、集会等の拠点となる地域公民館の整備を支援することにより、地域コミュニティの維持及び強化を図るため、建物の新築、改築等をする地域公民館に対し、予算の範囲内で、大船渡市補助金等交付規則（平成13年大船渡市規則第56号。以下「規則」という。）及びこの要綱により補助金を交付する。

(補助金の交付の対象及び補助額)

第2 補助金の交付の対象となる工事の種類及び経費並びに補助額は、別表第1のとおりとする。ただし、地盤の改良、土地の購入、外構の工事及び備品等の購入に要する費用その他市長が補助金を交付することが不相当と認める費用は、補助金の交付の対象となる経費から除くものとする。

(補助事業に要する経費の配分及び内容の変更)

第3 規則第6条第1項第1号及び第2号に規定する軽微な変更は、次に掲げる変更以外の変更とする。

- (1) 補助事業に要する経費の20パーセントを超える増減
- (2) 建築場所、設置場所、施行箇所等の変更
- (3) 前2号に掲げる変更以外の変更で補助額の増減を伴う変更

(提出書類及び提出期日)

第4 規則により定める書類及びこれに添付する書類並びに提出期日は、別表第2のとおりとする。

(申請の取下期日)

第5 規則第8条第1項に規定する申請の取下期日は、補助金の交付の決定の通知を受領した日から起算して15日以内とする。

(補則)

第6 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

別表第1（第2関係）

種類	経費	補助額
新築 又は 改築	建物の新築又は改築に要する費用のうち、本体工事及び附帯設備（電気設備、衛生設備等をいう。以下同じ。）工事（以下「本体工事等」という。）に係る経費	左欄の経費の2分の1に相当する額。ただし、500万円を限度とする。

増築	既存の施設と一体を成す建物として当該施設の床面積を増加する工事に要する費用のうち、本体工事等に係る経費	左欄の経費の2分の1に相当する額。ただし、150万円を限度とする。
修繕	建物本体及び附帯設備の補修に係る経費	左欄の経費の2分の1に相当する額。ただし、150万円を限度とする。

備考

- 1 改築には、既存の建物の主要構造部（壁、柱、床、はり、屋根及び階段をいう。）の過半を改修する工事を含む。
- 2 修繕とは、建物本体又は附帯設備を補修する工事であって、当該工事に要する費用が50万円以上のものをいう。

別表第2（第4関係）

条項	提出書類及び添付書類	様式	提出部数	提出期日
規則第4条の規定による書類	大船渡市地域公民館整備事業費補助金交付申請書 1 事業計画書 2 収支予算書 3 工事費の見積書の写し 4 設計図 5 その他市長が必要と認める書類	第1号 第2号 第3号	1部	別に定める。
規則第10条の規定による書類	大船渡市地域公民館整備事業計画変更（中止・廃止）承認申請書 1 事業変更計画書 2 収支変更予算書 3 その他市長が必要と認める書類	第4号 第2号 第3号	1部	別に定める。
規則第14条第1項の規定による書類	大船渡市地域公民館整備事業費補助金交付請求（精算）書 1 事業実績書 2 収支精算書 3 工事費の領収書の写し 4 その他市長が必要と認める書類	第5号 第2号 第3号	1部	別に定める。
規則第15条第2項の規定による書類	大船渡市地域公民館整備事業費補助金前金払請求書	第6号	1部	別に定める。

社会教育団体等育成補助金交付要綱

(目的)

第1 この要綱は、社会教育の振興を図るため、市内の社会教育団体等に対し、予算の範囲内で、大船渡市補助金等交付規則（平成13年大船渡市規則第56号）及びこの要綱により補助金を交付する。

(定義)

第2 この要綱において「市内の社会教育団体等」（以下「団体等」という。）とは、次に掲げるものとする。

- (1) 大船渡市地域婦人団体連絡協議会
- (2) 大船渡市PTA連合会
- (3) その他市長が認める社会教育団体等

(補助対象経費)

第3 補助の対象となる経費は、第2の各号に掲げる団体等が行う事業のうち、次に掲げる事業に要する経費とする。

- (1) その団体等の組織の運営に要する経費
- (2) その団体等の目的を達成するための事業の実施に直接必要と認められる経費
- (3) その団体等の加盟団体の育成支援に要する経費
- (4) その他市長が必要と認める経費

(補助金の額)

第4 補助金の額は、第3に規定する経費のうち、予算の範囲内で市長が定める。

(補則)

第5 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年6月9日から施行し、平成22年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

大船渡市芸術文化協会育成事業補助金交付要綱

(目的)

第1 この要綱は、芸術文化の振興を図るため、大船渡市芸術文化協会（以下「芸術文化協会」という。）に対し、予算の範囲内で、大船渡市補助金等交付規則（平成13年大船渡市規則第56号）及びこの要綱により補助金を交付する。

(補助対象事業)

第2 補助金の交付の対象となる事業は、芸術文化協会が行う事業のうち、次に掲げる事業とする。

- (1) 芸術文化協会の組織の運営に関する事業
- (2) 芸術文化活動の普及・奨励に関する事業
- (3) 芸術文化創作活動の支援に関する事業
- (4) 児童生徒に対する芸術文化の普及・奨励に関する事業
- (5) 芸術文化の広域振興に関する事業
- (6) 加盟団体の育成支援に関する事業
- (7) その他市長が必要と認める事業

(補助対象経費)

第3 補助金の交付の対象となる経費は、第2各号に掲げる事業に要する経費とする。

(補助金の額)

第4 補助金の額は、予算の範囲内で市長が定める。

(補則)

第5 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月23日から施行し、平成22年度分の補助金から適用する。

大船渡市郷土芸能協会育成事業補助金交付要綱

(目的)

第1 この要綱は、民俗芸能の保存・継承を図るため、大船渡市郷土芸能協会（以下「郷土芸能協会」という。）に対し、予算の範囲内で、大船渡市補助金等交付規則（平成13年大船渡市規則第56号）及びこの要綱により補助金を交付する。

(補助対象事業)

第2 補助金の交付の対象となる事業は、郷土芸能協会が行う事業のうち、次に掲げる事業とする。

- (1) 郷土芸能協会の組織の運営に関する事業
- (2) 民俗芸能の保存・伝承活動に関する事業
- (3) 民俗芸能の普及に関する事業
- (4) 加盟団体の発表・出演に関する事業
- (5) 加盟団体の育成支援に関する事業
- (6) その他市長が必要と認める事業

(補助対象経費)

第3 補助金の交付の対象となる経費は、第2各号に掲げる事業に要する経費とする。

(補助金の額)

第4 補助金の額は、予算の範囲内で市長が定める。

(補則)

第5 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月23日から施行し、平成22年度分の補助金から適用する。